



## 熊本市 感染症発生動向調査 速報 2

### ●麻しん（はしか）について NO.2

もっと詳しく！

麻しん（はしか）は伝染性の強い急性発疹性のウイルス感染症で、感染者の気道分泌物（鼻、咽頭、口腔からの飛沫、飛沫核）による空気感染、飛沫感染、接触感染などにより感染します。免疫を持たない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続する（終生免疫）とされています。

#### ◆免疫を持たない人の典型的な症状

**<前駆期（カタル期）>** 潜伏期間10～12日を経て発症します。38℃前後の発熱が2～4日続き、倦怠感があり、小児では不機嫌になります。咳、鼻汁、咽頭痛や目の充血、目脂（めやに）、羞明（まぶしく感じる）が現れ、次第に強くなります。乳幼児では8～30%に下痢、腹痛があります。

発疹が出る1～2日前ごろ、口の中に白い斑点のコプリック斑（写真1）みられ、発疹出現後2日目の終わりまでに急速に消失します。

**<発疹期>** カタル期での発熱が1℃程度下降した後、半日のうちに再び高熱（多くは39.5℃以上）が出るとともに、特有の発疹（写真2）が耳の後ろから顔面にかけて出始め、身体全体に広がります。全身に広がるまでに発熱（39.5℃以上）が3～4日間続きます。

**<回復期>** 発疹が出た後3～4日間続いた発熱も解熱し、全身状態、活力が改善してきます。赤い発疹が消えた後に褐色の色素沈着が残るのが特徴です。合併症のないかぎり7～10日後に回復します。

#### ◆修飾麻しんとは

予防接種をしても免疫が不十分な場合などには、典型的な麻しんの症状が出ず軽症（微熱、発熱期間が短い、カタル症状を認めない、限局性の発疹など）で終わることがあります。感染力も典型的な麻しんと比較すると弱く、潜伏期間も14日以上になることがあります。修飾麻しんは、症状のみから診断することは困難で、検査診断が必要です。ワクチン接種歴や渡航歴はもちろんのこと、麻しん患者との接触歴や職場や学校での患者発生の有無の確認がより重要となります。

#### ◆合併症にご注意

死亡する割合は先進国でも1,000人に1人と言われ、肺炎、脳炎（特に学童期に10万人に1人程度、亜急性硬化性全脳炎（SSPE））、中耳炎、中枢神経系合併症などをおこすこともあります。特に、予防接種を1度も受けていない乳児や妊婦が発症すると重症化したり、流産、早産する危険性があります。

◆治療 特別な治療法はなく対症療法が中心となります。

#### ◆予防方法

麻しんの一番の予防方法は予防接種です。これまで予防接種を受けていない方や、1回しか接種を受けていない方には、麻しん風しん混合ワクチンの接種をご検討ください。接種については、かかりつけの医師に相談してください。接種履歴は親子（母子）健康手帳を確認してください。

妊娠中は予防接種が出来ないため、麻しん流行時には外出を避け、人ごみに近づかないなどの注意が必要です。また、麻しん流行時に、同居者に麻しんにかかる可能性が高い方がおられる場合は、ワクチン接種等の対応について、かかりつけの医師にご相談ください。



写真1

（出典）国立感染症研究所



写真2

（参考）厚生労働省、国立感染症研究所ホームページ

麻しん（はしか）感染症届出数（過去5年）

	平成30年 2018年 (4月25日現在)	平成29年 2017年	平成28年 2016年	平成27年 2015年	平成26年 2014年	平成25年 2013年
熊本市	0	1※	1	0	1	0
熊本県	0	3	1	0	2	0
全国	86	187	165	35	462	229

※平成29年は臨床診断例です